

「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の進捗状況について

(1) 計画値の達成状況

本計画では、令和 1 3 年度を目標年次として達成すべき 5 つの具体的な数値目標を掲げています。

令和 4 年度は、5 つの数値目標のうち、総排出量・焼却処理量・最終処分量は計画値を達成しましたが、再生利用率・温室効果ガス排出量は計画値に達しませんでした。

表 1：計画値と実績値の比較

	令和 4 年度			令和 1 3 年度 (目標年度)
	計画値	実績値	達成状況	
総排出量 ¹ (t)	366,934	341,015	○	354,000
焼却処理量 (t)	240,452	231,541	○	235,000
再生利用率 ² (%)	35.5	34.4	×	38.0
最終処分量 ³ (t)	22,163	15,185	○	13,000
温室効果ガス排出量 (t)	81,042	89,307	×	78,000

¹ 総排出量：以下の①、②、③の合計

①家庭系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、有害ごみ、資源物（びん、缶、ペットボトル、古紙、布類、剪定枝等）、粗大ごみ）

②事業系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、事業系資源物（びん、缶、金属等、古紙・布類、厨芥類など）

③集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収

² 再生利用率：ごみの総排出量に対する再生利用量の割合（再生利用率＝再生利用量／総排出量×100）

※再生利用量：家庭系資源物、集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収、事業系資源物、不燃ごみ・粗大ごみの破碎後資源化量、有害ごみ・焼却灰等再資源化量の合計

³ 最終処分量：埋立焼却灰量と直接埋立量（破碎残さ量を含む）の合計

ア 総排出量

令和4年度の総排出量は341,015tとなり、前年度と比べて3,797t（1.1%）増加しましたが、計画値は達成しています。

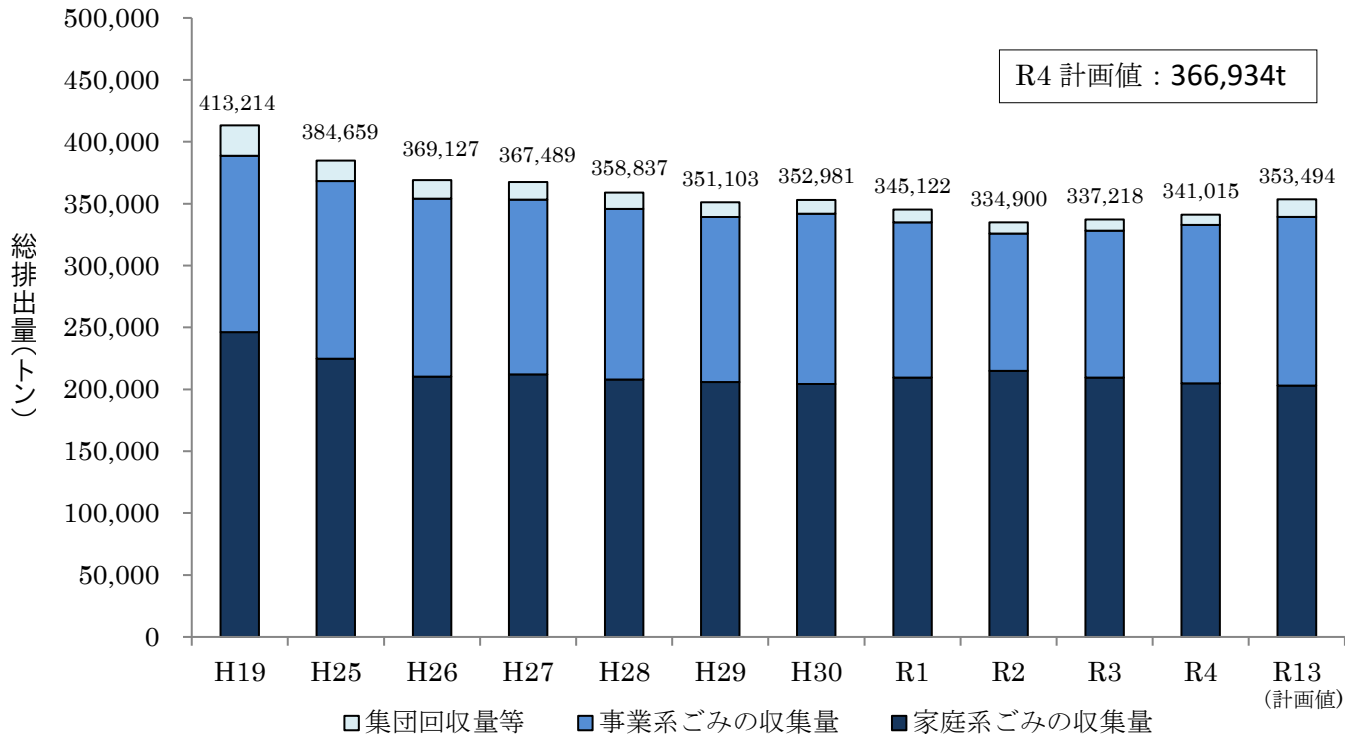


図1 総排出量の推移

《計画値と実績値》

【内訳】

① 家庭系ごみ

計画：175,169 トン→実績：170,061 トン（▲ 5,108 トン）

② 事業系ごみ

計画：73,793 トン→実績：66,161 トン（▲ 7,632 トン）

③ 家庭系資源物

計画：50,370 トン→実績：42,977 トン（▲ 7,393 トン）

④ 事業系資源物

計画：67,602 トン→実績：61,816 トン（▲ 5,786 トン）

【主な要因】

① 家庭系可燃ごみ収集量の減少（▲6,307 トン）

① 粗大ごみ収集量の増加（+1,603 トン）

② 事業系可燃ごみ収集量の減少（▲7,633 トン）

③ 家庭系古紙・布類の集団回収量の減少（▲6,098 トン）

④ 事業系古紙回収量の減少など

イ 焼却処理量

令和4年度の焼却処理量は231,541tとなり、前年度と比べて1,149t(0.5%)減少し、計画値を達成しました。

このうち、家庭から排出される焼却ごみの量は165,399t（前年度比3,486t（2.1%）減）に、事業所から出される焼却ごみの量は66,142t（前年度比2,337t（3.7%）増）となりました。

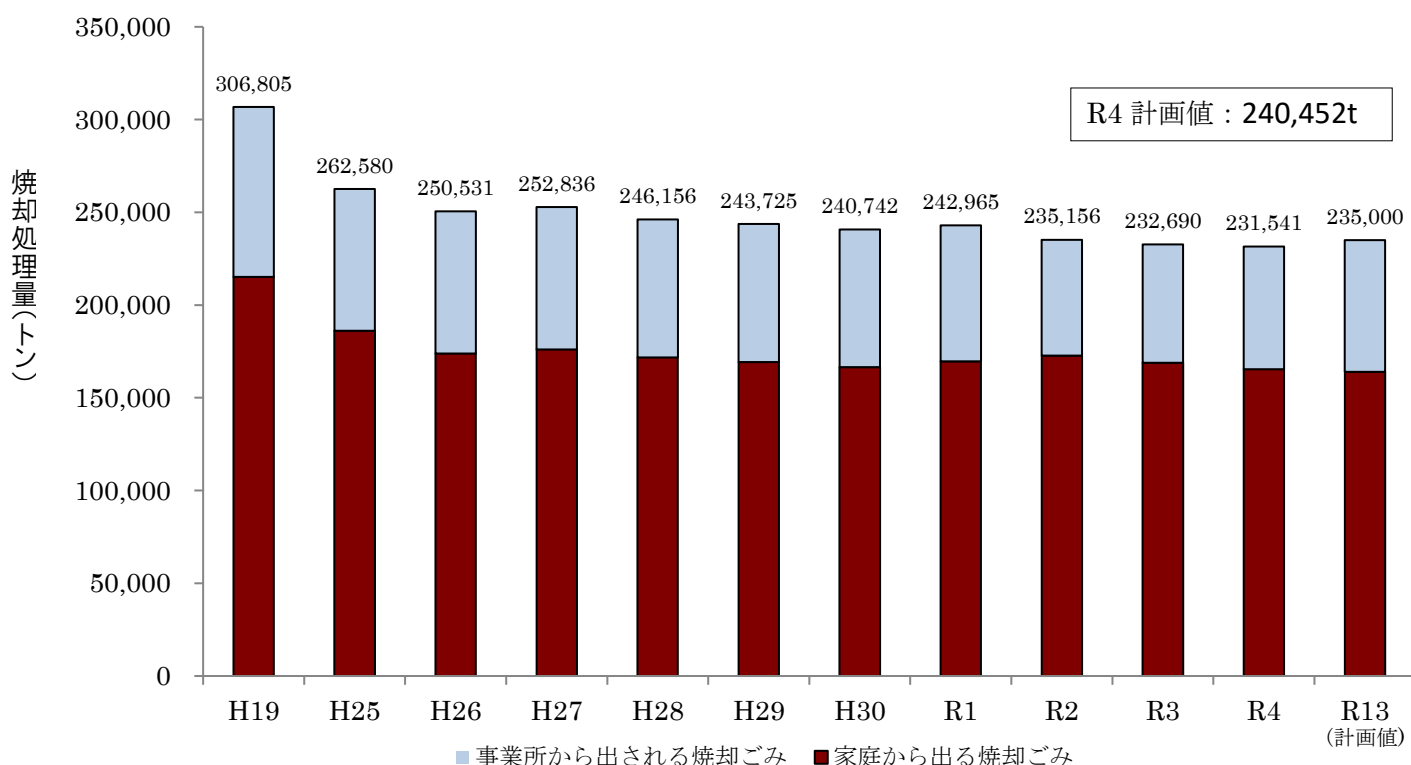


図2 焼却ごみの量の推移

《計画値と実績値》

【内訳】

① 家庭から排出される焼却ごみ量

計画：166,676トン→実績：165,399トン（▲1,277トン）

② 事業所から排出される焼却ごみ量

計画：73,776トン→実績：66,142トン（▲7,634トン）

【主な要因】

- ①ごみの減量と再資源化の取組みへの市民の意識の高まりなど
- ②新型コロナウイルス感染症の流行に伴う事業活動の縮小
（店舗・施設等の営業縮小など）

ウ 再生利用率

令和4年度に家庭から出された資源物の再資源化量は、ごみステーションへの排出・集団回収・拠点回収を合わせて 42,613t となり、前年度と比べて 1,024t (2.3%) 減少しました。

また、事業所から出された資源物の再資源化量は 61,816t となり、前年度と比べて 6,781t (12.3%) 増加しました。

これらに焼却灰等の再資源化量などを含めた再生利用量は 117,409t で、再生利用率は 34.4%となり、前年度と比べて 1.1 ポイント上昇しましたが、計画値の 35.5%に達しませんでした。

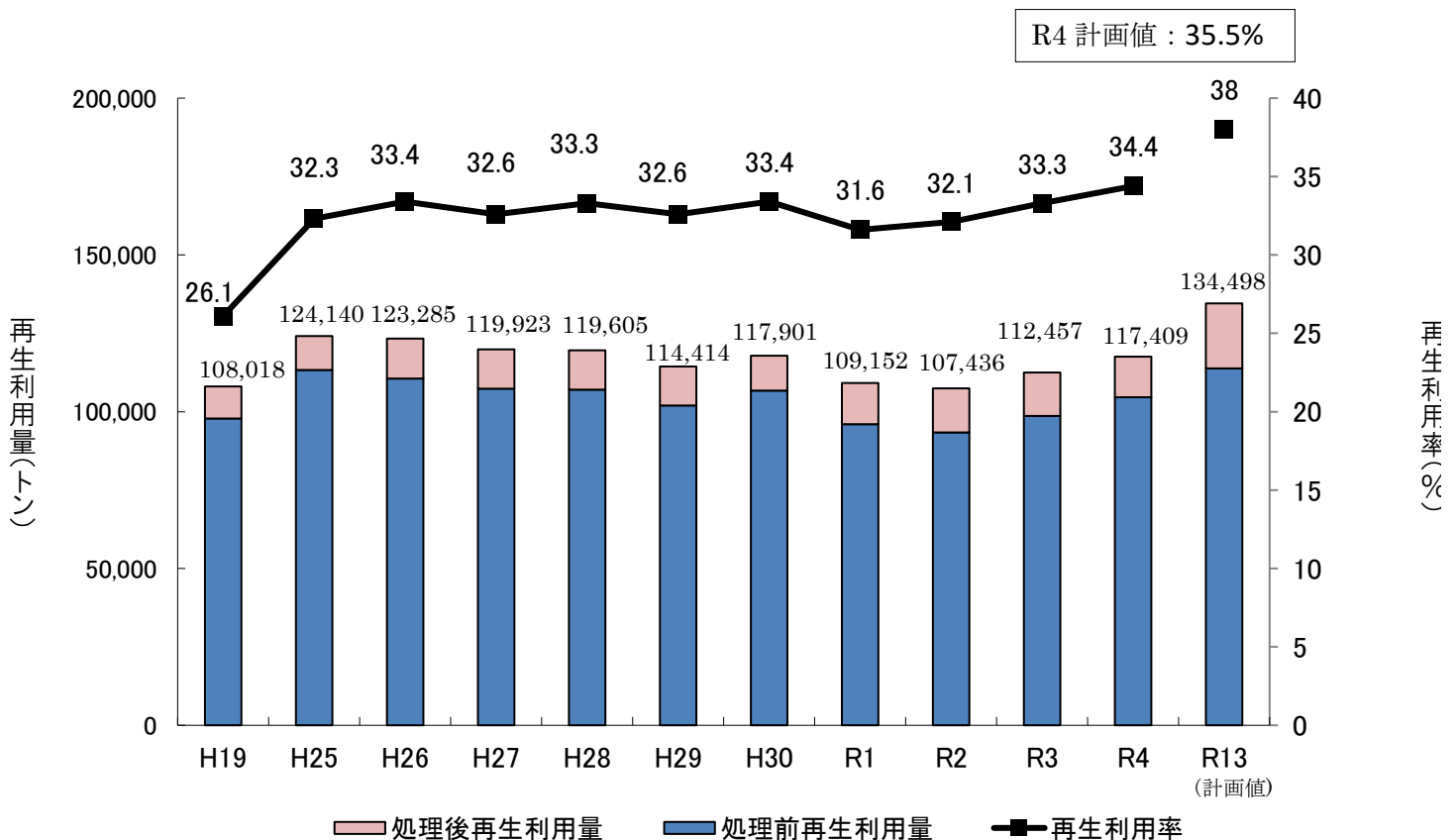


図3 再生利用量、再生利用率の推移

《計画値と実績値》

【内訳】

①家庭系資源物再資源化量

計画：50,370トン→実績：42,613トン（▲7,757トン）

②事業系資源物再資源化量

計画：67,602トン→実績：61,816トン（▲5,786トン）

【主な要因】

①家庭系古紙・布類の再資源化量（集団回収含む）の減少（▲7,790トン）

①家庭系びん・缶・ペットボトルの再資源化量の減少（▲827トン）

①家庭系剪定枝等の再資源化量の増加（+855トン）

②事業系古紙再資源化量の減少など

エ 最終処分量

令和4年度の最終処分量は 15,185t となり、前年度と比べて 930t (5.8%) 減少し、計画値を達成しました。

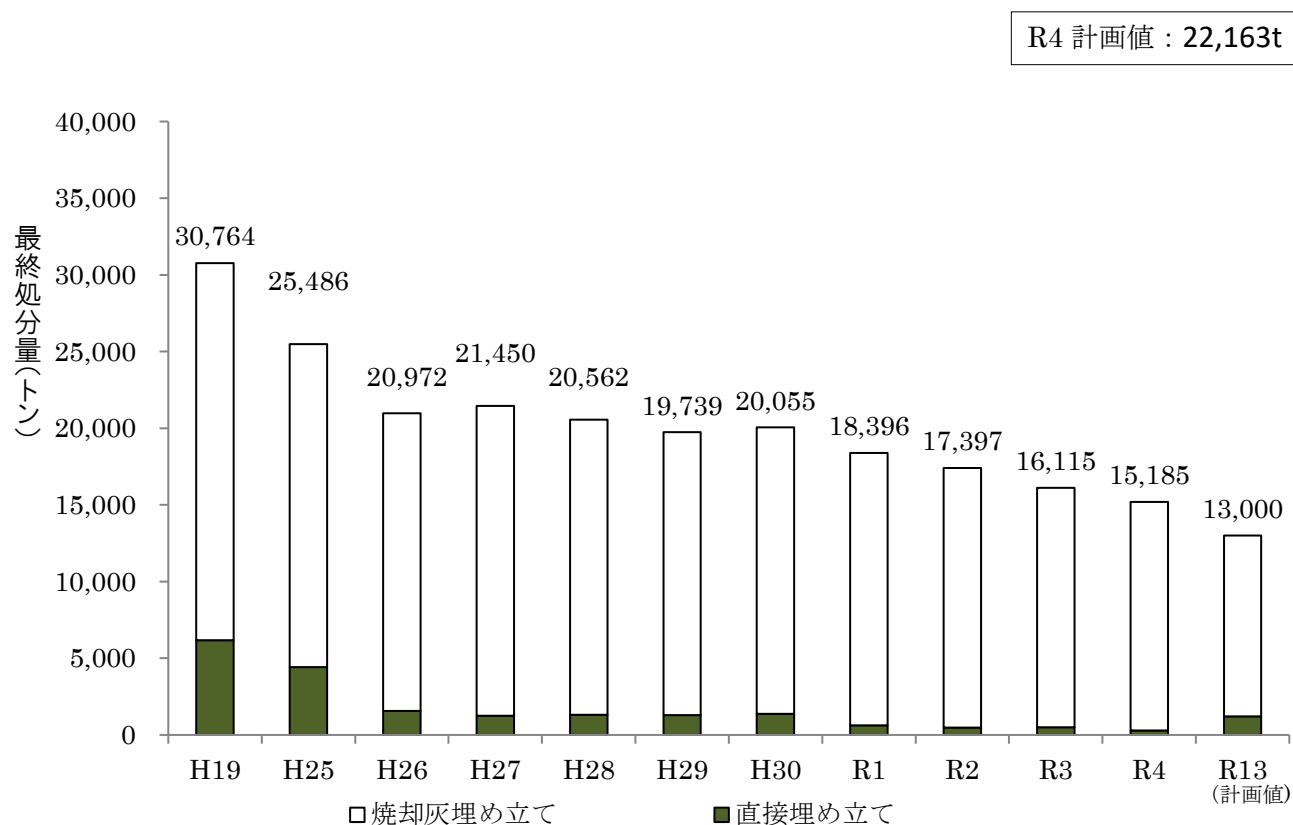


図4 最終処分量の推移

《計画値と実績値》

【取組結果】

① 焼却灰発生率

計画：10.8%→実績（北清掃工場）：6.7%

② 焼却灰埋立量

計画：20,913 トン→実績：14,892 トン（▲6,021 トン）

【主な要因】

- ・ 焼却灰発生率が推計値よりも低い

オ 温室効果ガス排出量

令和4年度の温室効果ガス排出量は焼却ごみの組成変化等により 89,307t となり、前年度と比べて 9,707t (12.2%) 増加し、計画値を達成しませんでした。

表2：温室効果ガス排出量の内訳

(単位：トン)

	清掃工場稼働に伴う発生量 (A)	廃棄物の焼却に伴う発生量 (B)	売電、熱供給に伴う間接削減量 (C)	合計 (A+B-C)
計画	※	※	※	81,042
実績	1,981	105,487	18,161	89,307
実績－計画				8,265

※計画値は、全体の排出量のみ計上しています。

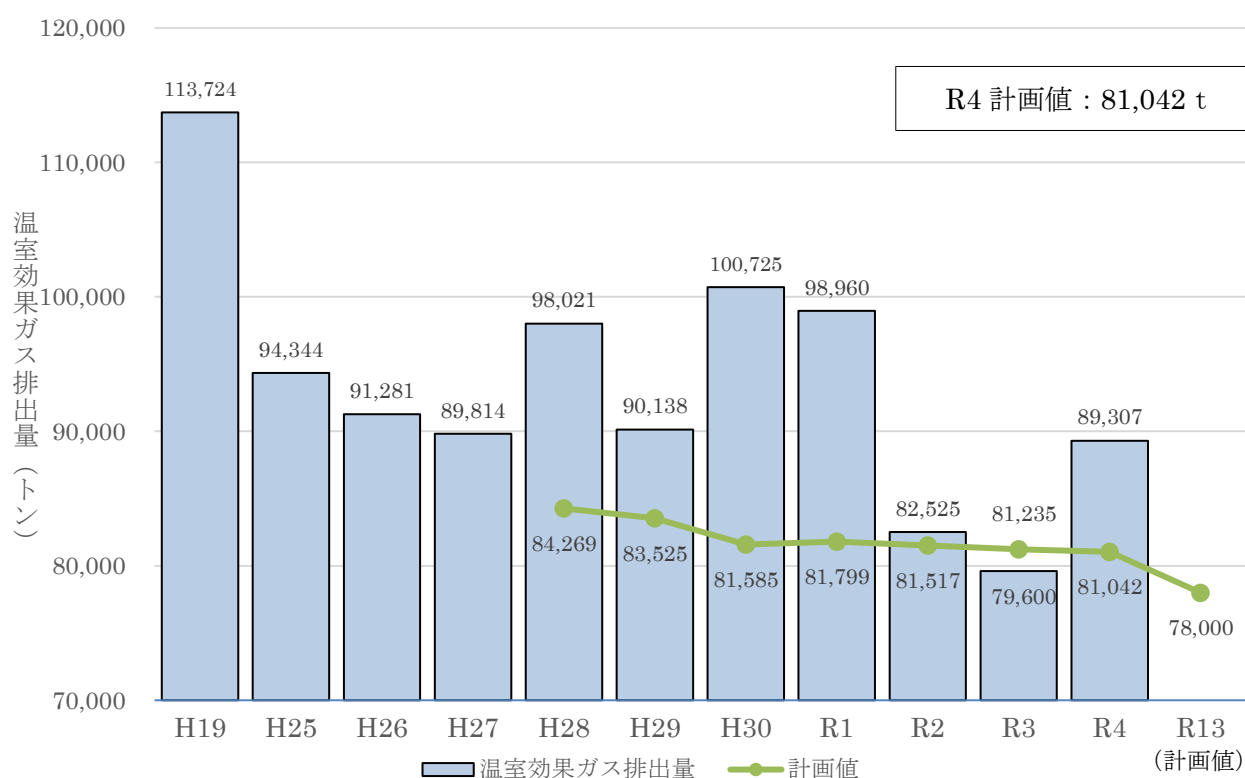


図5 温室効果ガス排出量の推移

《計画値と実績値》

【主な要因】

- ・焼却ごみ中のプラスチック類の割合の上昇

計画：28.5%→実績：(北清掃工場 32.9%、新港清掃工場 27.6%)